

# 札幌近郊 演劇の現場から 札幌市民交流プラザ二〇一八年の活動を終えて

著者	橋 秀典
雑誌名	Probe : 舞台芸術通信
号	13
ページ	44-46
発行年	2019-03-10
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00002859/">http://id.nii.ac.jp/1136/00002859/</a>

満員御礼で始まり、締めくくることができ、皆さまに心より感謝しております。

このような各種演劇制作事業のほかにも、劇場運営、

ワークショップ講師の派遣など、様々な事業を行いました。

二〇一九年も劇場で皆様をお待ちしています。

## 札幌市民交流プラザ二〇一八年の活動を終えて

公益財団法人札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ事業部 劇場事業課長 高橋 秀典

### 一 札幌市民交流プラザのオープンについて

札幌市民交流プラザは、多くの皆様の期待のもと、二〇一八年一〇月七日にオープンしました。市民交流プラザの四階から九階に位置する札幌文化芸術劇場 hitaru は、北海道初の多面舞台と三層バルコニー形式二三〇二席を備え、オペラやバレエ、ミュージカル等大規模な舞台芸術の上演が可能となりました。また、可動式の音響反射板を有し、ピアノやオーケストラの音も非常に良い音で楽しむことが出来ます。

それまで、各種公演が行なわれてきたニトリ文化ホールの閉館に伴い、その機能を引き継いでいることもあり、貸館事業も多く、ロック、ポップス、演歌等様々な公演が行なわれています。また、劇場の他、三階には劇場の主舞台と同じ規模で移動観覧席もある「クリエイティブスタジオ」があり、劇場公演のリハールや演劇、ダンスの発表等に利用することが出来ます。

二〇一八年の活動は、一〇月にオープンしてから二ヶ月までの三ヶ月間という短い期間でしたが、この短期間に実に様々な多くの公演が開催され、いずれの公演も多くの皆様にご来場いただきました。

ここでは、市民交流プラザ劇場事業課の主催事業を中心に振り返りたいと思います。

### 二 札幌文化芸術劇場 hitaru

札幌文化芸術劇場 hitaru の柿落とし公演として、一〇月七日（日）、八日（月・祝）にアンドレア・バツティストーニ指揮によるオペラ「アイーダ」を開催しました。神奈川県民ホール、兵庫県立芸術文化センター、ichiko 総合文化センター等との共同制作で、札幌公演は、ダブルキャストによる二日公演。チケットはプラザメンバー向け先行販売、一般販売ともに即日完売し、公演もバツティストーニの終始、迫力ある指揮で、独唱、合唱、オーケストラをまとめ、hitaru の潜在能力を存分に引き出すような名演でした。とりわけ、第二幕の壮大な凱旋のシーンは庄巻のパフォーマンスで来場者を魅了し、終演後も多くの来場者、評論家、関係者の皆様から、「想像以上に素晴らしい公演であった」と歓喜の声を聞くことができました。

続いて十一月三日（金・祝）、二四日（土）には、

主催事業としては最初のバレエ公演として、新国立劇場バレエ団「白鳥の湖」を開催しました。日本で唯一の国立バレエ団である新国立バレエ団としても北海道初公演となった本公演もアイーダ同様チケットは即日完売し、期待の高さを感じました。

「白鳥の湖」は、ピョートル・チャイコフスキーによって作曲されたバレエ音楽及びそれを用いたクラシックバレエ作品で、「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」と共に三大バレエと言われています。

耳に馴染んだチャイコフスキーの音楽が素晴らしいこともありますが、それを華麗な踊りでパワフルな姿にして魅せてくれる新国立劇場バレエ団のダンサー達と分かりやすいストーリーである本作品は、劇場のオーブニングにさわしい作品であることを改めて感じました。

特筆すべきは、新国立劇場バレエ団の全体的なまとまりと素晴らしさです。どのダンサーをとっても甲乙付けがたく、だからこそ、あの究極とも言えるコール・ド・バレエが実現するのではないかと言えます。第二幕と第四幕の白鳥コールドは、まるで全員がプログラミングされているかのごとく、一糸乱れぬクオリティの高さで、しかもどこにも硬さがなく、公演全体としても素晴らしい公演でした。

### 三 クリエイティブスタジオ

市民交流プラザの三階にあるクリエイティブスタジオの柿落とし公演として、国内外で活躍する振付家、山田うんさんが主宰するダンスカンパニー「C.O. 山田うん」のレパートリー作品「結婚」と、今回のために出演者

オーディションを行い、選ばれたダンサー二名による「春の祭典」を一月二十七日(土)、二十八日(日)に開催しました。札幌を中心に全国各地のダンサーがオーディションに挑み、オープン前からクリエイティブスタジオはもの凄いエネルギーに包まれていました。本番までの短い稽古時間の中で山田うんさんの振り付けを全力で吸収し形になっていく、その過程は目を離すことが出来ないくらい感動的なものでした。全身全霊のパフォーマンスは満席の来場者を魅了し、鳴り止まない拍手が劇場のオーブンを祝福しているようで、終わってしまうのが名残惜しくも感じました。

二月一七日(月)から二五日(火)には、ノーベル文学賞作家、サミュエル・ベケットの不朽の名作であり多くの演劇人に影響を与えている「ゴドーを待ちながら」を上演しました。当作品はクリエイティブスタジオで初めて演劇の上演が行なわれることや斎藤歩さんをはじめ、札幌と東京で活躍する俳優達が共演することもあり、開催前から話題になっていました。不条理劇という言葉が先行していた感がありましたが、観劇してみると笑える場面や島次郎さんの斬新な舞台美術もあいまって、来場者は一様に楽しんでいました。開幕直後は残席のある公演もありましたが、口コミで評判となり結果はほぼ満席で千秋楽を終えました。アイーダ公演の時もそうでしたが、このゴドーが開幕してから、首都圏の方では良い意味でざわついているという話を聞き、札幌市民交流プラザの賑わいが発信され日本全国に広がっていくのを実感しました。

この他、世界で最も注目されているピアノリストの一人であり、当劇場のスタインウェイ社製ピアノの選定者でもあるユジャ・ワンのピアノリサイタルでの名演や二〇一八年より夏・冬開催となったサッポロ・シティ・ジャズ冬で登場した舞台上客席でのシアタージャズライブの開催など、劇場のハイスペックな舞台機構を駆使した数々の公演が行なわれました。

札幌市民交流プラザは、札幌文化芸術劇場 hitaru、クリエイティブスタジオの他、札幌文化芸術交流センター SCARTS、札幌市図書・情報館との複合施設です。劇場法前文で示されているとおり「劇場、音楽堂は、人々の共感と参加を得ることにより『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている」ことも踏まえて、都心部における新たな文化芸術の発信拠点

## 札幌劇場祭 (TGR) 2018 を振り返って

今年度も、一三回目となる札幌劇場祭 (TGR) 2018 が、一月一日(木)～二月二日(日)の約一ヶ月間、開催され、無事に終了いたしました。TGRに参加してくださった劇団、関係団体の皆さん、ありがとうございました。また、なにより、多くのお客様が劇場に足をお運びくださり、活気あるTGR2018になったこと、本当に感謝しております。

そして市民の日常的な交流の場として、これからも都心部における新たな賑わいの創出を目指していきます。



アイーダ 札幌公演  
(写真提供：札幌文化芸術劇場 hitaru)



白鳥の湖 札幌公演  
(撮影：Y's PHOTO SELECTION)

## 札幌劇場連絡会 会長 斎藤ちず

TGR2018は、三二団体の参加を得て、一二八ステージ、総入場者数一〇、〇九八名でした。昨年度に比べ、参加団体数、入場者数ともに幾分少なく、全体として低調との声も聞かれました。しかしながら、一方、道外劇団の意欲的な参加や若手劇団の名作への挑戦などの特徴も見られました。